



よし みず ひろ や
吉水裕也

授業実践リーダーコース
教授

このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金(平成23年度から科学研究費助成事業に改称)を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は1人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3~5年です。

地域のスケールに応じた地誌学習の課題発見内容とカリキュラム開発

(平成21~24年度科学研究費補助金・基盤研究に採択)

地理の学習をする場合、スケールは重要な概念の一つです。

例えば、「日本の稲作はどこで行われているのか」を考えると、この証拠をどの縮尺の地図で表現するのは悩ましい問題です。マッチ箱くらいの大きさの日本地図に赤色で表現するならば、北海道の東部と北部以外は稲作地域として真っ赤に塗りつぶされることとなります。A4一枚くらいでもほぼ真っ赤に塗りつぶされ、ほとんど同様の結果が出るかもしれません。しかし、国土地理院が発行している5万分の1地形図レベルになると、沖積平野や山間の谷につくられた田の様子が読み取れるため、日本で稲作が行われている所を小地形との関係で論じることが出来ます。2万5000分の1になると、畑や家屋の分布との対比などからもっと細かな違いが読み取れるようになりますし、1万分の1では一筆(区画)ごと

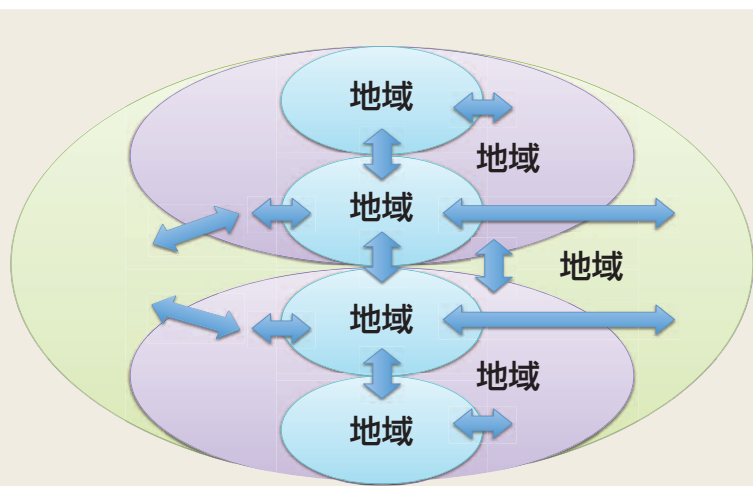
スケール論	分析できる内容
地理的スケール	▶空間の発生・変化のプロセス
マルチ・スケール	▶空間の重層性や階層性 ▶異なったスケール間の関係

の特徴を読み取ることが出来るかもしれません。1万分の1地形図だと一枚の図幅に全く田がないということもあり得ます。どのスケールを設定するのは空間の問題を扱う地理では重要な問題です。これは地域やそこに見られる事象の静態を捉えようとする際の話です。しかし、地域は発生・変化するものです。そのため、あるスケールを持った地域が発生・変化するプロセスでは、異なるスケールの地域から受ける政治的影響は見逃せません。地理学や政治学では、異なるスケール間の影響について関心が高まっています。地域の動態を捉えやすいからでしょう。例えば、EUは国家と

いうスケールを超えた共同体をつくった実験場で、そこに国家というものがあるように影響できるのか、EUから受ける影響によって国家は退場したのかという議論がありました。地域の動態を捉えるには、地域の発生・変化に伴ってスケール間でどのような影響を与え合っているのかというマルチ・スケールのアプローチによる学習内容開発も重要になります。

社会科学は内容教科だと言われます。どのような内容を学習するのが、社会科にとっては重要だということでしょう。これはどのような学習課題を設定するのかという問題に置き換え可能です。スケールの問題を考慮して、どのような学習課題を設定し、その学習課題を生徒が発見・把握する過程を授業に組み込むのか。これは教材研究の重要な一側面です。私の研究では、地域を発生・変化する動態的なものと

捉えています。ある地域が発生・変化する時に、他の地域(例えば、同じスケールの他地域や異なるスケールの地域)からどのような影響を受け、また与えながら発生・変化するのかというプロセスを捉えるには、どのような学習課題を設定する必要があります。



同じスケールやスケールの異なる他の地域が互いに影響しながら地域は変化する

のかを研究しています。また、地域を所与のものとして捉えるスケールの見方(地図学的スケール、方法的スケール)と、地域が発生・変化するものだというスケールの見方(地理的スケール)をどのように教育課程に組み込んでいけばよいのかを考えています。